

藤間謙二 個展

『花を通して考える / 11の個性』

- 会 期 2026年4月18日（土）～2026年5月23日（土）
■会 場 KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY
〒106-0031 東京都港区西麻布2-7-5 ハウス西麻布 5F | TEL: 03-5843-9128
■開 廊 水曜日～土曜日 13:00～18:00（日・月・火・祝休廊）
*臨時休廊：4/29（水）～5/6（水）

▼オープニングレセプション

2026年4月18日（土）17:00～18:00



left: 15_Dahlia / Calient - Bloom | 2020 | archival pigment print | 750 × 610 mm
right: 15_Dahlia / Calient - Afterglow | 2023 | archival pigment print | 750 × 610 mm
© Kenji Toma, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHYは、2026年4月18日（土）より藤間謙二個展『花を通して考える / 11の個性（11 Individuals）』を開催いたします。

藤間謙二は、19世紀の植物細密画への敬愛を根底に据えた代表作〈The Most Beautiful Flowers〉で国際的な評価を獲得してきました。ドイツでの作品集刊行をはじめ、アメリカ、イギリス、インド、韓国、日本など多様な文化圏で高く評価され、その写実性と抒情性、そして時代を超えた美意識は多くの観覧者を魅了しています。

本展で世界初公開となる新作シリーズ〈花を通して考える / 11の個性〉は、〈The Most Beautiful Flowers〉の被写体として撮影された花々の「その後」を克明に捉えたものです。作家は本作について、表層的な「生」「死」を超えて、命を全うした個としての存在の深淵を見つめる意図を語っています。

色彩溢れる花の生命力も確かに美しい一方で、本シリーズは瑞々しさを失い枯れきった花をモノクロームで厳密に写し取り、大判プリントで提示します。現代はしばしば自然の営みや時の流れにあらがうような生き方が求められますが、こうした「抗い得ない変化」を真正面から見据えることで、作品は命の重みと儚さ、そして示唆に富んだ驚きを観る者にもたらすことでしょう。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



10_Dahlia / Caballero - Afterglow



07_Dahlia / Spartacus - Afterglow



12_Dahlia / Eveline - Afterglow

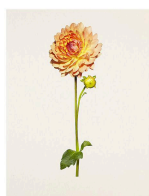
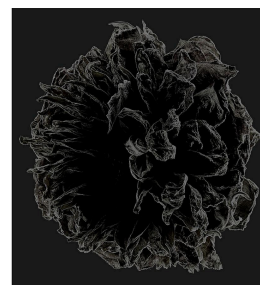
2023 | archival pigment print | 1300 × 1100 mm
© Kenji Toma, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



left: 18_Dahlia / Ivanetti - Bloom | 2020
right: 18_Dahlia / Ivanetti - Afterglow | 2023



left: 08_Dahlia / Sheer Heaven - Bloom | 2020
right: 08_Dahlia / Sheer Heaven - Afterglow | 2023



left: 17_Dahlia / Wildwood Marie - Bloom | 2020
right: 17_Dahlia / Wildwood Marie - Afterglow | 2023



left: 13_Dahlia / Ben Huston - Bloom | 2020
right: 13_Dahlia / Ben Huston - Afterglow | 2023



all: archival pigment print | 750 × 610 mm
© Kenji Toma, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■

「花を通して考える / 11の個性 (11 Individuals)」

本作は、人の生と死の在り方を、花の生涯を通した観察記録として捉えた写真作品です。

大地に落ちた一粒の種から始まる、生の営み。太陽の光は、慈愛に満ちた母の胎内のようです。その温もりと安心感に包まれ、十月十日の安らぎを経て、私たちは「個」としての長い時間を歩み始めます。自分という色を出すのか、形を成すのか、あるいは「自分であること」にこだわるのか。与えられた時間の長さは人それぞれですが、何より大切なのは、その人生に、そして生きていけることに感謝を捧げることではないでしょうか。

数多の共通する種があろうとも、全く同じ存在は一つとしてありません。自分らしく生きること、夢を見ることが、存在の意味を探ること。そしていつか迎える死に対して、生き抜いたという「恍惚感」を抱けること。

この物語は、実はその先のお話です。

人にも花にも、いつか必ず「生きる」ことのピリオドが訪れます。死を前にして人は、自らの歩みを振り返り、生きた意味を探します。後悔や未練もあるかもしれませんが、しかし、最後に残る骨と皮だけの姿こそ、飾りのない本当の自画像なのではないでしょうか。

地球上のあらゆる生命が辿る、この普遍的なプロセス。私は花の生涯に、人間と全く同じ物語を感じます。

幾億回と繰り返されてきた、芽吹き、朽ち、大地を豊かにする自然の摂理。その流れに反して身勝手に振る舞う現代において、もう一度、自身の肌で、自身の存在を感じてみてください。欲を脱ぎ捨てた最後、そこに横たわる生命の痕跡。一つの花を通して、個々が確かに存在していたという、その証を.....。

藤間謙二

アーティストプロフィール

藤間謙二 (とうま・けんじ)

新潟県出身。1990年よりニューヨークにて活動し、現在は日本を拠点に活動。主な個展に『Jessica 弧 Arc - Gelatin Silver Print』(2020年、Monochrome Gallery RAIN、東京)、『Artificial Flowers』(2019年、KANA KAWANISHI PHOTOGRAPHY、東京)、『 π - 3.14 / LITH PRINT』(2018年、Monochrome Gallery RAIN、東京)、『The Most Beautiful Flowers』(2017年、Gallery 916、東京) など。2017年、作品集『The Most Beautiful Flowers』をKehrer Verlagより刊行。パブリック・コレクションにFundación Centro Ordóñez - Falcón de Fotografía (サン・セバスティアン、スペイン) など。